

平成30年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	世田谷区教育委員会
-----	-----------

I 概要

1 選択したテーマ

テーマ	取組項目	選択
①交流及び共同学習を継続的な取組とするために、教育課程への位置付け等、組織的かつ計画的な取組の在り方に関する研究	(ア) 通常の学級に在籍する全ての児童生徒等に交流及び共同学習の機会を学校として計画的に実施するための方法に関する研究	○
	(イ) 障害のある児童生徒及び障害のない児童生徒等が、交流及び共同学習を通じ、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むために、交流及び共同学習のねらい、事前学習と事後学習、年間指導計画への位置付けの効果的な工夫に関する研究	○
	(ウ) 通常の学級の担任などの教職員が主体的に交流及び共同学習に取り組むための体制整備の在り方及び教職員の意識向上に関する研究	
	(エ) ICTを活用した交流及び共同学習に関する研究	
②学校間交流や居住地校交流等を進めるための関係する教育委員会との連携の在り方の研究	(ア) 特別支援学級が設置されていない小・中学校における学校間交流を推進するための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	(イ) 高等学校における学校間交流や居住地校交流を進めるための学校と教育委員会の連携の在り方に関する研究	
	(ウ) 学校間交流や居住地校交流等を進めるための市町村教育委員会と都道府県教育委員会又は市町村教育委員会と市町村教育委員会の連携に関する研究	
	(エ) 居住地域の小・中学校等に副次的な籍を置くなど、居住地域との結びつきを強める工夫に関する研究	
③障害のある大人の人との交流や地域における高齢者等の世代を超えた交流の在り方に関する研究	(ア) 障害のある大人の人との交流に当たり、福祉部局や社会福祉法人等と連携したネットワーク形成に関する研究	
	(イ) 教育委員会と地域の関係者による「心のバリアフリー連絡協議会(仮称)」を設置し、取組状況や実施体制などの成果と課題について協議するなど、地域に心のバリアフリーの意識を啓発し根付かせるための研究	
	(イ) 高等学校の生徒や特別支援学校の高等部の生徒が、継続的に地域の障害のある大人の人との交流をするための方策に関する研究	

2 事業の概要

○光明学園を会場とした「ボッチャ」の交流及び共同学習

- ・各交流校とボッチャを通じた交流及び共同学習を行った。
回数等は以下のとおりである。

- 代田小学校 5回（4.5.6年各2回ずつ）※1回は中止

- 松原小学校 1回（4年）

- 梅丘中学校 1回（1年）

- 奥沢小学校つくし学級・松沢小学校きはだ学級 1回

- 東深沢中学校 1回（特別支援学級1～3年）

- ・会場は光明学園体育館及びS棟（多目的教室）を使用。どの交流も前半に親睦を深める活動を行い、後半に、児童生徒同士が交流できるような形でパラリンピック公式種目「ボッチャ」を行った。

○予算の活用

高齢者・身体障害者・疑似体験教材セットを5セット、全盲体験用ゴーグル5個組を4セット購入し、松原小学校の授業（障害者理解）で使用した。

○運営協議会の開催

- ・平成31年3月6日 実施

【内容】今年度の交流の様子報告、意見交換、次年度に向けて 等

3 事業の成果

- ・「ボッチャ」の競技に継続して取り組んでいることで、以下のような成果があがった。
 - (1) 重度の障害がある児童生徒でも道具等を工夫することで活動できる競技であり、ランプという投球台を使うことで、光明学園の児童生徒に関しては、微細な手の動きであっても、ボールを投球することができた。
 - (2) 易しい競技で、初めて取り組んでも、ルールを理解して楽しめる。小・中学校の児童生徒の中には初めて取り組んだものもいたが、すぐにルールを理解し、楽しく競技できた。
 - (3) パラリンピックの正式種目であり、来たる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて児童生徒が興味・関心を持つきっかけとすることができた。
- ・実施上の工夫としては、
 - (1) については、交流校の児童生徒がアシスタントになることで、光明学園の児童生徒と協働して競技をすることができ、交流を深めることができた。
 - (2) については、競技ボッチャのルールではなく、簡略化したルールも設定したことで、より競技を楽しむことができた。
 - (3) については、昨年度から継続して光明学園で取り組んでいる「夢・未来プロジェクト」活動を紹介した。車いすラグビー選手が来校した時に児童生徒が実際に協議を体験している様子を紹介したりすることで、オリンピックだけでなくパラリンピックへの関心を高めることができた。

4 事業の課題とその解決のために必要な取組

●交流から共同学習へ

「交流から共同学習」に向けては、継続して課題となっているが、毎年少しずつ進んできている。ボッチャの競技自体の認知が進んできて、小・中学校の児童生徒が競技に対するイメージをもつことができていることで、スムーズに交流が進められていると考えられる。

また、「ボッチャ」については、成果も見られ、交流及び共同学習の活動としては有効であることがわかったが、児童生徒がより主体的に交流していくためには、他の活動へと広げていく必要があると考える。今年度も昨年度同様、ハンドサッカー（東京都の肢体不自由特別支援学校で取り組んでいるスポーツ）のシュート合戦やパラバルーン（大きなバルーンを使った活動）や大縄跳びや綱引きなど、障害のある児童生徒と、通常学級の児童生徒が、共に楽しみながら交流できる活動に取り組んできている。更に継続して、こういった活動を模索していきたい。